

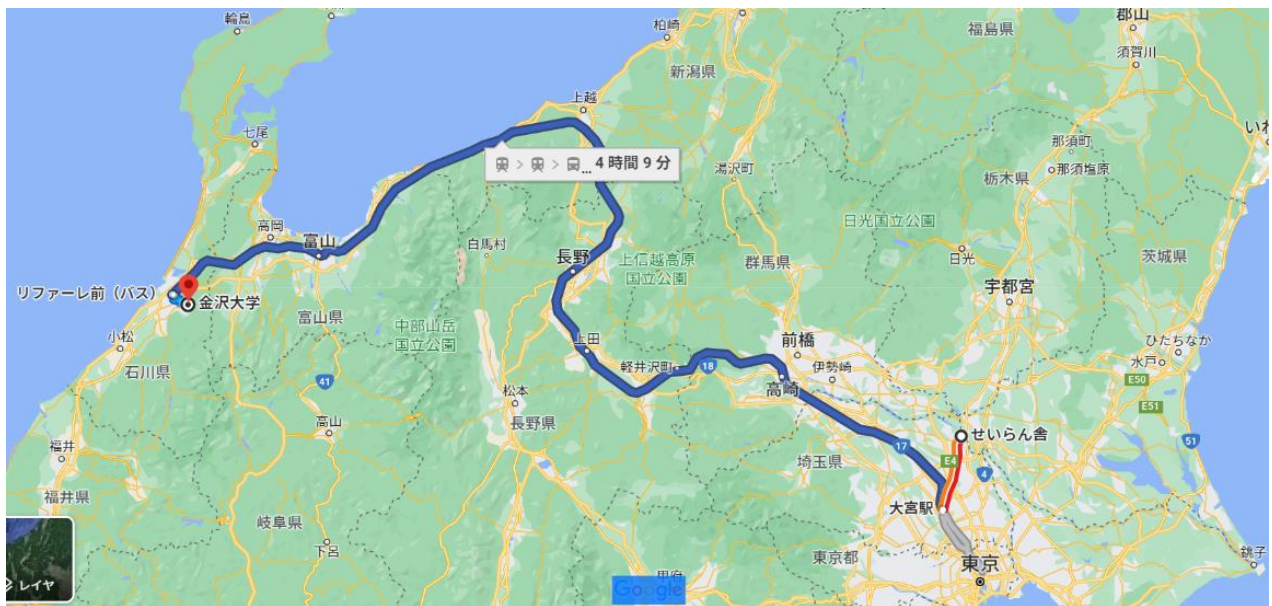
せいらん舎卒業生による『金沢大学』紹介

せいらん舎 19 期生 (2017 年卒塾)

岩崎 壮志

概要

所在地：石川県金沢市角間町



せいらん舎から金沢大学までのアクセス

せいらん舎→栗橋駅 (徒歩・6分)

栗橋駅→大宮駅 (JR 宇都宮線・29分)

大宮駅→金沢駅 (北陸新幹線・2時間32分)

金沢駅東口→金沢大学自然研前(バス・32分)

学域・学類 (当大学は学部ではなく学域・学類という分類をします)

融合学類	先導学類・観光デザイン学類
人間社会学域	人文学類、法学類、経済学類、学校教育学類、 地域創造学類、国際学類
理工学域	数物科学類・物質科学類・機械工学類・フロンティア工学類・ 電子情報学類・生命理工学類・ <u>地球社会基盤学類</u> ← 私の所属学類
医薬保健学域	医学類・薬学類・医薬化学類・保健学類

金沢大学を選んだ2つの理由

一つ目は国立大学であるため、学費が安く研究設備が良いことです。私が進んだ理系の学部は、文系の学部に比べて研究費がかかります。私立の大学では学費がさらに高額になってしまうため、一人暮らしをすることも考慮して、国立大学を選びました。

広大な敷地の中で多くの研究設備を安価で活用できるところは、地方の国立大学の特権だと思います（田舎すぎて、大学内でクマやタヌキが出ることも笑）。

二つ目は、多くの観光資源に囲まれた環境で一人暮らしは、素晴らしい経験になると思ったからです。後に紹介しますが、金沢には日本三名園に数えられる名勝『兼六園』、雄大な日本海を臨む『内灘砂丘』、昔の街並みの面影あふれる『ひがし茶屋街』など、数多くの観光名所が存在します。お休みの日にはそれらの観光名所に遊びに行くこともあります。さらには、一人暮らしをしていることで友達と遅い時間まで遊んだり、好きなときに好きな料理を作って食べたりできることも、地方の大学生活ならではの醍醐味だと思います。

大学生活に関して

放課後の過ごし方

サークル・アルバイト・ドライブ・パーティーなどなど、自分の好きなことができる。一人暮らしなら、夕飯は自分で作ったり、友達とご飯を食べに行ったりでき、その後友達の家に行ってそのまま泊まったりすることも！

私は多い時には8日間連続外食&友達の家で連泊したことがあります笑

夏休み・春休みの過ごし方

約2か月間の長期休暇になります。小・中学生の休みに比べて圧倒的に期間が長く、部活やアルバイトだけでなく、旅行の計画も可能です。高校生と比べても、活動の幅が大きく広がります。私の場合は、何回かに分けて東北の百名山を登ったり、北海道旅行から九州旅行を続けて強行したり、サイクリングでしまなみ海道を渡ったり、淡路島、琵琶湖一周をしたりしました。おかげで47都道府県上陸制覇しました！お金を貯めるのが大変でしたが…

(笑)。



学校の勉強

大学生：自分の興味のある専門分野についてだけ学びます。(だからと言って、中学校の9科目の勉強をサボるのはあかん！)

例 (文学部：現代文・古文・中国語・ヨーロッパ史)

(建築学部：物理・化学・構造力学・材料工学)

(体育学部：体育・栄養学・保健学) ※学校により異なります。

また、時間割は自分でたてることができ、一日に2,4限目だけ、または全休(授業が全くない日)を作ることができます。テストは、中学校のような穴埋め試験もあれば、感想文や自分で調べなければならないレポートなどもあります。また、まれに試験もレポートもなく、毎時間の感想を書くだけで取れる授業もあります。上の学年に進むことができる要件を満たしていないと、留年(進級できず、翌年も同じ学年で過ごすこと)という憂き目に遭うことがあります。

対人関係

金沢大学では、同じ部活・クラス・バイトはもちろんのこと、日本全国から学生が来るため、北は北海道、南は沖縄までのあらゆる友達ができます。

(方言も様々)

1, 2年生のうち、教授とは距離がやや遠い(4年生になり、専門分野を

研究するようになると近くなります)です。ですから、顔も名前も覚えられない先生も多いかもしれません。また、有名大学出身で個性の強い先生が多いです。

恋愛事情については、同学年はもちろんのこと、部活・バイト先で知り合った先輩・後輩と付き合う人もいます（中には高校から続いている遠距離カップルも?）。

卒業後の進路

ほとんどの大学では4年で卒業しますが、そのあとの進路は2種類あります。

1つ目は就職です。就職する学生は3年生からインターン（職場体験）なども含めた就職活動や、公務員の試験勉強を始めます。また、3年生になると専門科目や実験などが増えてくるため、1・2年に比べて忙しくなります。ですから、就職の試験対策はより難しいものになります。

2つ目は大学院です。同じ大学の院に進む場合、4年生までの成績が良ければ内部進学することができ、試験内容が面接だけです。またそれ以外の方は、3年生の後期ごろから院試の勉強に取り掛かります。通っている大学に併設された大学院に進学する場合は、外部の大学院を受験するのと比べると、準備する負担が断然少ないです。大学院では、自分が大学で研究した内

容をさらに詳しく研究するため、特に興味がある分野がある人は進学をお勧めします。また、民間の企業に努めたい人は大学院に進学したほうが有利な場合（特に理系では）もあります。

派遣留学制度



当学では約半年から一年間の留学制度があり、その国の言葉でその国の授業を受けられます。また、食費や生活費などは大学から支給があるなどの手厚い保証があります。海外に住んでみたい人はぜひ！

キャンパス・観光地

『自然科学研究棟』



理系の学生たちが勉強する建物
研究設備がそろっている

『総合教育棟』



文系の学生たちが勉強する建物
ほかにも体育館、プールなどの運
動施設が充実

『金沢大学医学部附属病院』



医薬保健学域の学生たちが勉強し、
実習する建物

『金沢駅』



金沢駅のシンボル
多くの人の集合場所に使わ
れる。

『兼六園』



日本三名園のうちの一つ
国の特別名勝に指定されている庭

『ひがし茶屋街』



重要伝統的建造物保存地区
茶屋様式の町家が数多く残
っている

『近江町市場』



新鮮な魚などを売っている市場
それらを使った料理屋さんも絶品

『金沢百万石まつり』



百万石行列をはじめ、茶会な
どのイベントが6月上旬に三
日間行われる。

Interview

Q：大学で学んでいることは？

A：私が所属している地球社会基盤学類では主に、橋、ダム、堤防などの防災・インフラ設備の設計や構造について学んでいます。また、1, 2年次は政治、経済、文学史、金沢の地域交流、体育、など、当学類とはあまり関係ない学問についても学ぶことができます。しかし学びは勉強という枠だけにとどまらず、様々な県から来た、様々な考え方の人達との交流。サークルやバイト先での上下関係・旅行・自分に任せられた責任遂行・一人暮らしを通しての家計のやりくり・生活リズムなどの自分を律する力など、中学・高校以上に様々な学びがあります。

Q：せいらん舎での生活を振り返ると…

A：私はおそらく、せいらん舎が求める模範生徒とはかなりかけ離れた生徒(勉強以前の事柄で先生を困らせることもしばしば)でした。なぜ静かに授業を受けることができなかつたのかと反省することも多いです(笑)。そんな僕が思ったのは、せいらん舎の先生方は、生徒に対してとてもフレンドリーに接してくれ、生徒を単なる成績として見るようなことはしませんでした。生徒と同じ目線に立って日常の些細なことでも聞いてくれたり、わからないところがあったらわかりやすく教えてくれたりして、とても心強い存在でした。当時は何も分からずに、反抗してしまうこともしばしばありまし

たが（笑）。せいらん舎は当時も素晴らしい塾だと思いましたが、卒塾して時間が経つとそのことをさらに実感することができます。

Q：将来の目標は？

A:まだ確定はしていませんが、再び関東に戻って技術系公務員になろうと思っています。

Q 勉強する意味が分からない…（中学生のときの自分）

A:「机に向かって勉強なんかするよりも遊ぶほうが楽しいし、教科書を読んで難しい問題を解くのも面倒くさいし、親は勉強をやりなさいと言うし、勉強なんか面白くないし、する意味が分からん！」…。中学生だった当時、私はそう思っていました。みなさんはどうでしょうか？今になって少し成長した私が思う勉強する意味とは、“あらゆるものの見方を客観的に、様々な方向から見る力を養うこと、かつ、（これから生きていく上で必要であろう）自分の人生の決断の材料を増やすこと”だと思います（少し言っている意味が分かりませんよね…笑）。例えば、社会では金閣が出てきますね。実際、修学旅行などでそれを見たときに、「ピカピカな金でできていて綺麗！」と感じると思います。しかしそれと同時に、「足利義満さんがどの時代にこのような理由で建てたのか。しかもこのような歴史的な背景があったんだ」と、想いを馳

せながら見たほうが百倍楽しくないですか？（彼女にそのよううんちく言ったらかっこいいと思われるかもよ？笑）。また、国語においては問題を解いていて答えが違ったとき、「私は違うと思うのに！」ではなく、「私はこう思う。けど作者はこのように思うのか変わった人もいるもんだ」と思うほうが面白くありませんか？この考え方はみなさんの日常にも通じます。例えば、気が合わない苦手な子、何を考えているのか分からない子がいたら、「その子たちの考えている意味が分からん！」と決めつけることは簡単です。しかしそこで、なぜ気が合わないのか、どのようなことを考えているのかを思いやってみたり、実際に彼らに積極的に接してみると意外と自分の考え方が変わったり、仲良くなれたりするかもしれません。これは読解問題と似ていて、問題を解くことをやめることは、考え方を広げることを妨げるのと一緒なのです。苦手な人のことを考えたり、接したりするのは大変だし面倒。それと同じように長い文章を読むことも面倒です。ですが、その先にモノの見方を変える何かがあると思います。また、それでも勉強するのが嫌だなど思う子は多いと思います。しかし、学校や親御さんも皆さんに嫌がらせをするために勉強を勧めているわけではありません。みなさんが今後、人生をより豊かに生きていくことに役立つであろうと思って、勧めてくれているのです。問題を解くのが難しいから勉強は嫌だ。その気持ちもわかります。しかしこれから先、勉強以外でももっと難しい問題に立ち向かうことが多々あると思いま

す。その時のための予行練習だと思って頑張ってください。最後に、私が皆さんに一番言いたいことは、将来、「あの時あれをしておけばよかった」と後悔することを想像できるならば、今、それを絶対にやっておくべきです。“後悔先に立たず”ですね。今頑張れば、あとできっと過去の自分をほめてあげることができると思います。

大学生になったらきっと楽しいことが待っています。頑張ってください！

出典：<https://sgu.adm.kanazawa-u.ac.jp>
<https://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/>
<https://studynews.jp/>
<https://www.axscom.co.jp/>
<https://kosublog.com/>
<https://www.kanazawa-kankoukyoukai.or.jp/>
<https://icotto.jp/>
<http://blog.livedoor.jp/>

2022.4.